

令和7年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体をもち、知性と創造性に富む実践力のある子供の育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

<合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子>

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子供が、教職員が、保護者が、地域の人々が、誰もが生き生きと輝く学校をめざす。

- (1) 子供が夢や目標に向かって 主体的に活動に取り組む学校
- (2) 知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校
- (3) 教職員が専門性を発揮し、チーム力を高めて創意工夫に取り組む学校
- (4) 児童・保護者・地域との信頼関係を築き、家庭や地域の教育力を生かす学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、各種学力調査問題を活用しながら、基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の充実に努める。
- (2) 「宮っ子心の教育」を推進し、個に応じた支援及び認め励ます教育の充実に図りながら、児童にとって居がいのある温かい雰囲気のある学校経営、学級経営に努める。
- (3) ○心身ともに健康で安全な生活を送るために、体力向上や保健教育、食育、安全教育に関する指導の充実に図る。
- (4) 信頼される教職員を目指して個々の資質・能力の向上を図るとともに、教職員組織のチーム力を高め、働き方改革を推進する。

【若松地域学校園教育ビジョン】「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWG S学校園」
9年間の学校教育にかかわる教職員が、その思いと責任を共有し、連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法規・法令や新学習指導要領及び県、市の教育行政の方針等を踏まえる。
- (2) どのように学びどのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。
- (3) 現代的な課題（SDGs、デジタルシティズンシップ等）に対応できる資質能力を育成するため、教科等横断的な視点で関連付けを図る。
- (4) 児童の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を大切にする。
- (5) 持続可能な社会の創り手となるよう、児童が自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を育むことができるよう工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○児童が主体的に学習に取り組めるよう授業づくりを工夫するとともに、学び合い活動の充実に図ることによって、深い学びにつなげられるようにする。

・学級活動や児童会活動、学校行事等を通して、児童の主体的な取組と協働を支援し、達成感や充実感を味わわせることにより、自己有用感や自己肯定感の高揚を図る。

・特別支援教育への理解を深め、全校体制で支援の充実に努める。（一人一人の教育的ニーズの把握、校内委員会の充実、医療的ケア支援員等校内関係スタッフとの連携と効果的な活用）

・学校の重点課題を明確にし、課題解決に向けた取組を効果的、効率的に実施できるよう教職員の意識改革と協働的な体制づくりを進めていく。また、教職員が児童と向き合う時間を確保できるよう業務を精選するとともに、保護者や地域に向け、学校の働き方改革について情報を発信し、理解を求めていく。

(2) 学習指導

○基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み、課題を解決し自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

・「宇都宮モデル」を活用し、精選した目当てを示し、自ら考え、共に学び合う時間を意図的に組み入れ、思考力、判断力、

表現力の育成を図る。

- ・基本的な学習態度・学習技能の習得を基に、一人一人に応じたきめ細かな指導を展開し、基礎・基本の確実な定着を図る。
(少人数指導、かがやきルームの活用、朝の学習の効果的な運用)
- ・学年に応じた家庭学習の内容や進め方を示し、児童が自主的、主体的に家庭学習に取り組めるよう支援する。
- ・1人1台端末を活用した授業改善を継続するとともにA Iドリル等を活用した学習の基盤となる能力の向上、デジタルシティズンシップの育成に取り組む。

(3) 児童生徒指導

- 児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。(帰属意識の高い学級づくり)
- ・自ら課題に立ち向かい、思いやりと協働を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気をつくることで、学力向上の基盤となるようにする。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- 地域学校園の児童生徒の実態を把握、分析したうえで、義務教育9年間を通して、健康に関する自己管理能力や体力の向上、安全に配慮し行動できる力、望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける力を育てる。
- ・自らの健康について関心を持ち、健康の保持増進に努めるための判断や行動ができる実践力を養うために、担任・養護教諭・栄養教諭が連携して指導にあたる。
- ・交通ルールの順守や自転車乗車時のヘルメット着用について日常的に指導し、交通安全の意識の高まりを実践につなげられるようにする。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学習に取り組めるように学習課題の内容や設定の仕方を工夫し、様々な学習形態を取り入れた学び合いを実施する。 ・児童が見通しをもつことができるような「めあて」の提示とともに、「めあて」に即したまとめと振り返りを充実させ、各時間での学習内容の定着や達成感を味わうことができるような授業展開を行う。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 89.2% ↑ (88.9%) を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・保護者 87.1% ↑ (84.1%)、教職員 92.5% ↓ (93.8%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもつことができるような「めあて」の提示、「めあて」に即したまとめと振り返りを充実させ、各時間での学習内容の定着や達成感を味わうことができるような授業展開を行う。 ・個人の学びを集団で練り上げる学び合いの場面では、安心して自分の考えを表現できるような環境を整えていく。また、相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう、自分の考えを伝える力の育成に努める。

1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>保護者アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士が感謝の気持ちを言葉として表す活動を帰りの会や学級活動を通して、常時行うことで、互いに思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び、学校で行われる全ての活動において、道徳教育の充実を図るとともに、児童が直面した諸問題について、学級または学年で望ましい行動を話し合い、実践できるようにしていく。 ・学年や学級に関係なく、全教職員で意図的、積極的に児童の優しさや思いやりを認め、褒めていく。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は 93.4% ↑ (89.7%)を示し、数値指標 90%を上回っている。 ・児童 90.8% ↑ (87.5%), 教職員 97.5% ↑ (87.5%), 地域 92.9% ↓ (100.0%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会や学級活動を通して、児童同士が感謝の気持ちを伝え合う活動を常時行うことで、思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び、学校で行われる全ての活動において、道徳教育の充実を図る。また、児童が直面する諸問題について、学級または学年で望ましい行動を話し合い、実践できるようにしていく。 ・学年や学級に関係なく、全教職員で意図的、積極的に児童の優しさや思いやりを認め、褒めていく。
	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体の学習のめあてだけでなく、個々が自分の目標を設定し、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいこうとする意欲や態度を支援していくことで、達成感を高めていけるようにする。 		<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 88.7% ↓ (87.3%)を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・保護者 79.3% ↑ (76.7%), 教職員 87.5% ↓ (93.8%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もクラス全体の学習のめあてだけでなく、個々が自分の目標を設定し、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいこうとする意欲や態度を支援していくことで、達成感を高めていけるようにする。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットや必要に応じてマスクの着用、前向き給食等）を通して、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ対策の指導を徹底させる。また、給食後の歯磨き指導を行い、むし歯予防に努める。 ・靴下や下着、体育着の着用の仕方を、五代の子のきまりとして文書を通して家庭に周知し、児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・スタンダードダイアリーに加え、電話連絡やさくら連絡網、タブレットクラスルーム機能も活用し、児童の健康状態の把握に努め、気になる児童には個別に指導を行う。 ・集団登下校や自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、不審者侵入想定避難訓練、児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力の育成を図る。下校指導には全職員が当たり、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 93.1% ↑ (89.8%)を示し、数値指標 90%を上回っている。 ・教職員 87.5% (87.5%), 保護者 87.4% ↓ (88.0%) 地域 96.4% ↓ (100.0)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットや必要に応じてマスクの着用、前向き給食等）を通して、コロナやインフルエンザ等の感染症対策の指導を徹底させる。また、給食後の歯磨き指導を行い、むし歯予防に努める。 ・清潔なハンカチや靴下、下着を身に付けるように指導を続け、学年だよりや学級懇談会を通して家庭に周知し、児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・電話連絡やさくら連絡網、クラスルーム機能も活用し、児童の健康状態の把握に努め、気になる児童には個別に指導を行う。 ・集団登下校や自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、不審者侵入想定避難訓練、児童引渡し訓練を通して、自己保全能力の育成を図る。下校指導には全職員が当たり、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。

<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に自己の生活を振り返ることで、自己理解を深め、自分のよさに気付かせたり、成長を実感させたりする。 ・学習や生活の中で、協力して取り組むことで解決できる課題や活動を意図的に取り入れることで、集団で協力することのよさを実感させる。 ・学級活動や特別活動、行事等において、児童が主体的に参加し活躍できる場を設定し、児童のよさを発揮する機会を充実させる。 ・学校全体での表彰や学年学級での表彰等、児童一人一人のよさを認め励ましていく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 87.6% ↑ (86.8.0%) を示し、数値指標 85% を上回った。 ・教職員 90.0% ↓ (93.8%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に日々の生活を振り返ることで自己理解を深め、自分のよさに気付かせたり、成長を実感させたりする。 ・協力して取り組むことで解決できる課題や活動を意図的に取り入れることで、集団で協力することのよさを実感させる。 ・学級活動や特別活動、行事等において、児童が主体的に参加し活躍できる場を設定し、児童のよさを発揮する機会を充実させる。 ・学校全体での表彰や学年学級での表彰等、児童一人一人のよさを認め励ましていく。特に全校児童の前で表彰する機会を増やしていく。
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたりALTと協力したりしながら、児童が意欲的に取り組める活動を取り入れ、さらなるコミュニケーション能力の向上を図る。 	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 80.7% ↑ (80.3%) を示し、昨年度の数値を上回ったが、数値指標 85%を下回った。 ・教職員 100.0% ↑ (93.8%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたりALTと協力したりしながら、児童が意欲的に取り組める活動を取り入れ、さらなるコミュニケーション能力の向上を継続的に図る。 ・ALTと事前に打ち合わせを重ねるなどして、指導力の向上を図る。 ・給食時、ALTと代表児童との英語の放送をすることで、英語に触れる機会を設ける。 ・給食会食でALTとの交流を図る。
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の具体策を確実に実施するとともに、さらに「良さ」を紹介していく機会を増やし、郷土への思いを高めていく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 87.6% ↑ (84.9%) を示し、数値指標 85%を上回った。教職員は 80.0% ↑ (78.1%)、保護者 72.3% ↓ (72.4%)、であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の具体策を確実に実施するとともに、学習したことを授業参観で発表したり、学年だよりを通して紹介したり、ボランティアを活用して学習を深めたりする。 ・学校での取組を保護者や地域の方に知っていただく機会を増やして連携していく。

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、1人1台端末 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、パ ソコンや図書等を学習に活用 している。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じてICT機器や図書等 を効果的に活用するなど、情報活用 能力を高める活動を取り入れてい く。 ・総合的な学習の時間や教科等の授 業で、積極的に図書室を利用し、ま た、端末の併用により相乗効果を生 み出す活用法を検討していく。 ・調べ学習等で使用する図書を整理 し、活用できるようにするととも に、巡回図書も積極的に活用してい く。 ・デジタルシティズンシップ教育に 関する職員研修の機会を設け、職員 も学びを広げ、指導に役立ててい く。 	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 85.8% ↓ (86.0%)を示し、昨年度より下回った が数値指標 85%は上回っている。 ・教職員 97.5% ↓(100.0%)、保護者 79.5% ↓(84.1%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じてICT機器や図書等を 効果的に活用するなど、今後も情報活 用能力を高める活動を取り入れてい く。 ・様々な教科等で、積極的に図書室を利 用し、また、端末の併用により相乗効 果を生み出す活用法を検討していく。 ・調べ学習等で使用する図書を整理し、 活用できるようにするとともに、巡回 図書も積極的に活用していく。 ・デジタルシティズンシップ教育に関 する職員研修の機会を設け、職員も学 びを広げ、指導に役立てていく。 ・授業参観等で積極的にICT機器の活用 をするようにする。 ・学校ホームページや学年だよりで、 ICT機器を使っている様子を発信す る。
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、『持 続可能な社会』について、関 心をもっている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教科でSDGsについて取 り上げるようにするとともに、児童 会活動や給食等で児童の具体的な 実践も行っていくなど具体策を続 けていくことで、ごみの減量等、学 年に合わせた形で考えさせられる よう支援していく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 86.0% ↓ (88.8%)を示し、昨年度より下回った が、数値指標 80%を上回っている。 ・教職員 62.5% ↓(71.9%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する具体的な取組が特 別なものではなく日常的になってき ていともいえる。児童会活動・給食・ ごみの減量等、教職員が意識的に指導 に当たるようにしていく。
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員 は、特別な支援を必要とする 児童の実態に応じて、適切な 支援をしている。」 ⇒肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、ブロックを中心に日頃から教 職員同士が声を掛け合い、担任一人 が抱え込まないようにする。 ・対応が後手に回らないよう、相談し やすい雰囲気醸成する。 ・外部機関とつながりのある児童の 情報を確実に把握し、次年度への担 任をはじめとする当該児童の関係 者にスムーズに引継ぎを行う。 ・支援を要する児童の実態を把握し、 長期目標と、それを達成するための 短期目標を定め、当該児童に効果的 な方法を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やか に記録し共有することで、担任以 外の教職員が対応することができ るようにしたり、次年度への引継ぎ がよりスムーズに進めたりできる ようにする。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率は 97.5% ↑ (93.8%)を示し、数値指標 95%を上 回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年、ブロックを中心に日頃から教職 員同士が声を掛け合い、担任一人が抱 え込まないように組織的に対応する。 ・対応が後手に回らないよう、相談しや すい雰囲気を醸成する。 ・外部機関とつながりのある児童の情 報を確実に把握し、次年度への担任を はじめとする当該児童の関係者にス ムーズに引継ぎを行えるシステムを 構築する。 ・支援を要する児童の実態を把握し、長 期目標と、それを達成するための短期 目標を定め、当該児童に効果的な方法 を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やか に記録し共有することで、担任以外の 教職員が対応することができるよう にしたり、次年度への引継ぎがよりス ムーズに進めたりできるようにする。

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上</p> <p>保護者アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめは決してあってはならないことだということを 4 月の学級開きから、年間を通して継続して指導することで、学級や学校にいじめを許さない雰囲気を醸成し、いじめを予防していく。 ・ 児童だけでなく、保護者との信頼関係の構築に努め、児童一人一人が安心して学校生活が送れるように協力体制を築いていく。 ・ いじめに関するアンケート、教育相談を定期的 to 実施し、いじめの早期発見に努める。また、児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・ 児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年や児童指導主任、管理職で共有したり、必要に応じて面談を行ったりする。 ・ いじめゼロ強調月間において、児童会主体の活動を行うことで、児童の意識を高めていく。 ・ 学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信することで、地域とも連携して取り組めるようにする。 ・ 読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり、人権に関する作文（あすへのびる）を読む時間を設けたりするなど、自他の人権への関心を高める。 ・ 職員研修の充実を図り、いじめや人権への理解を深め、指導力向上に努める。 	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の肯定的回答率は 94.9% ↓ (95.9%) を示し、数値指標 95% を下回っている。 ・ 保護者の肯定的回答率は 77.6% ↑ (76.2%) を示し、昨年度より上回ったが、数値指標 80% を下回っている。 ・ 教職員 100.0% (100.0%)、地域 92.3% ↑ (80.0%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月の学級開きから、年間を通して継続して指導することで、学級や学校にいじめを許さない雰囲気を醸成し、いじめを予防していく。 ・ 児童だけでなく、保護者との信頼関係の構築に努め、児童一人一人が安心して学校生活が送れるように協力体制を築いていく。 ・ いじめに関するアンケート、教育相談を定期的 to 実施し、いじめの早期発見に努める。また、児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・ 児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年や児童指導主任、管理職と共有し、さらに全職員で共通理解を図る。 ・ いじめゼロ強調月間において、児童会主体の活動を行うことで、児童の意識を高めていく。体育館で実施してもよい。 ・ 学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信することをさらに充実させていく。より積極的に閲覧を呼び掛けるなど、保護者や地域とも連携して取り組めるようにする。 ・ 読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり、人権に関する作文（あすへのびる）を読む時間を設けたりするなど、自他の人権への関心を高める。 ・ 職員研修の充実を図り、いじめや人権への理解を深め、指導力向上に努める。 ・ 最後の授業参観時に、マネジメントの結果を公表したりやいじめ対応についての実態を周知したりすることで、関心をもってもらう。
------------------------------------	--	--	---

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケート「教職員は、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人のよさが発揮され、居がいのあるクラスづくりを行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・学級活動や道徳科、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気醸成していく。 ・学校生活における児童の頑張りやよさ、取り組み等を保護者に伝えていくことで、児童や保護者との信頼関係を築いていく。 ・一人一人の児童に対し、教育的愛情をもって接し、認め励ましていく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は 93.1% ↓ (95.1%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 85% を上回っている。 ・児童 93.1% ↓ (95.2%)、教職員 100.0% ↑ (93.8%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人のよさが発揮され、居がいのあるクラスづくりを行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・学級活動や道徳科、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気醸成していく。 ・学校生活における児童の頑張りやよさ、取り組み等を学校ホームページ、学年便り等を通じて保護者に伝えていくことで、児童や保護者との信頼関係を築いていく。 ・一人一人の児童に対し、教育的愛情をもって接し、認め励ましていく。 ・気になる児童には、早期に声掛けや面談を行う。
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を中心として、授業や特別活動、なかよし班活動等において、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ・児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 <p>○小中一貫教育実施に伴い、乗り入れ授業や進学先中学校訪問、児童指導連絡会等、児童生徒の健全育成のための方策を中学校と連携して考え、実践する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は 92.6 ↓ (94.0%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 85% を上回っている。 ・保護者 88.4% ↓ (91.9%)、地域 92.9% ↓ (93.8%)、教職員 97.5% ↑ (93.8%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を中心として、授業や特別活動、なかよし班活動等において、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ・引き続き、児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 <p>○小中一貫教育実施に伴い、乗り入れ授業や進学先中学校訪問、児童指導連絡会等、児童生徒の健全育成のための方策を中学校と連携して考え、実践する。</p>
<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、教員間での学び合いを深めることで、指導力（授業力）を向上させる。 ・児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。 ・児童の学びが継続していくような学習の進め方を統一することで、学年や担任が代わっても授業形態が変わらないようにする。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 95.2% ↓ (95.6%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 95% を上回っている。 ・保護者 84.4% ↓ (88.6%)、教職員 100.0% ↑ (96.9%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、指導力のさらなる向上を図る。 ・児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。 ・学習の進め方を統一することで、学年や担任が代わっても児童の学びが継続していくようにする。 ・きめ細やかな学習指導を行うために、教職員の情報のやり取りを密にすることで児童理解を深め、教材研究に生かす。

4- (2) チーム力の 向上	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・ブロック、校務分掌等で課題を共有し、PDCAサイクルを位置づけた活用計画や運用計画に基づいた具体策を引き続き確実に実施していくとともに、一人で抱え込まないようお互いに声を掛け合って業務にあたっていけるようにする。 	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 97.5% ↓ (100.0%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 90% を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・学年・ブロック、校務分掌等で課題を共有し、PDCAサイクルを位置づけた活用計画や運用計画に基づいた具体策を引き続き確実に実施していくとともに、一人で抱え込まないようお互いに声を掛け合って業務にあたっていけるようにする。</p>
4- (3) 学校における働き方改革の推進	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等の精選や、日課を工夫するなど改善策を図り、業務の効率化に取り組んでいく。 	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 97.5% ↑ (93.8%) を示し、数値指標 85% を大きく上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・学期末特別日課の導入や電話対応時間の短縮など取り組んだが、さらに行事等の精選や、日課を工夫するなど改善を図り、業務の効率化を推進する。</p>
5- (1) 全体的な学校運営・教育活動の充実	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意義のある乗り入れ授業や中学校訪問になるように、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また地域学校園教科部会・分科会の機会において、職員が相互理解を図ることができるようにする。 ・運動会での水まきや陸上練習、小中合同あいさつ運動等、学校行事や地域学校園行事において、児童生徒の交流がさらに深まるように計画する。 ○要請訪問等、若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛ける。 	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 84.8% ↓ (89.7%) を示し、昨年度より下回ったが、数値目標を上回っている。</p> <p>・教職員 97.5 ↑ (90.6)、保護者 79.3% ↓ (81.3%)、地域 82.1% ↓ (86.7%) であった。</p> <p>【次年度の方針】 ○児童に直接関わる乗り入れ授業や中学校訪問だけでなく、教科部会や授業参観の機会を設けることで、小中学校の職員の相互理解をさらに深める。</p> <p>○小中合同あいさつ運動等、今後も児童生徒の交流がさらに深まるような取組を計画するとともに、HPなどを積極的に周知する。</p>
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p> <p>地域住民アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 (魅力ある学校づくり地域協議会、学校支援ボランティア、企業等、地域の教育力を生かした教育活動など)」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の見守り、図書ボランティア、作品ボランティア、ミシンボランティア、学級懇談会での児童見守り、町探検などの活動を充実させ、地域の方々や関係機関と連携を深めながら内容を工夫し、年間を通して活動を充実させていく。 ・五代っ子フェスタなど子供や保護者、地域の方々が楽しめる行事（地域の活動）を活性化していく。 	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.82% ↓ (90.2%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 85% を上回っている。</p> <p>・地域の肯定的回答率は、100.0% ↓ (82.4%) を示し、数値指標 80% を大きく上回っている。</p> <p>・保護者 88.8% ↑ (85.8%)、教職員 100.0% (100.0%) であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・登下校の見守り、図書ボランティア、作品ボランティア、学習支援ボランティア、町探検などの活動を充実させ、地域の方々に助けていただく機会をさらに増やしていく。また、五代っ子フェスタ・五代夏祭りなど子供や保護者、地域の方々が楽しめる行事（地域の活動）をさらに活性化していく。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度の安全点検や日常的な点検を実施するとともに、配慮児童の身体の状態に応じたバリアフリー化を図る。 ・各教室や廊下、準備室、倉庫などの整理整頓に努め、安全に配慮する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的割合は 87.1% ↑ (89.2%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 85% を上回っている。 ・教職員 100.0% ↑ (96.9%)、地域 96.6% ↑ (82.4%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1度の安全点検や日常的な点検を実施していく。 ・日常的に各教室や廊下、準備室、倉庫などの整理整頓に努め、安全に配慮する。
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 教職員アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、各種システムやツール※を積極的に活用している。 ※学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校務用パソコンや1人1台端末を使用した学習教材の準備・確認をし、教材の内容や使い方を教職員が共通理解することで、授業ですぐに使用できるようにする。 ・ICT支援員との連携を密に行うことで、学習指導や業務の効率化に生かしていく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率は 97.5% ↑ (100.0%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 80% を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の発達段階に応じた指導方法を継続的に研修していくことで、学習指導に生かしていく。 ・ICT支援員との連携を密に行うことで、学習指導や業務の効率化に生かしていく。
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上 保護者アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の目を見て、挨拶することや会釈することに重点をおいて指導をしていく。 ・全教職員で、挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において、挨拶について話し合い、称賛及び指導を繰り返し行い、挨拶の習慣化を図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し、率先して挨拶をすることで、挨拶を返したり、自分から挨拶したりできるよう全校体制で推進する。 ・時と場や人に応じた挨拶の仕方を繰り返し指導していく。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり、挨拶を啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 90.4% ↑ (86.7%) を示し、数値指標 85% を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 81.4% ↑ (80.2%) を示し、数値指標 80% を上回っている。 ・教職員 85.0% ↑ (78.1%)、地域 72.4% ↓ (75.0%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で、挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において、挨拶について話し合い、称賛及び指導を繰り返し行い、挨拶の習慣化を図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し、率先して挨拶をすることで、挨拶を返したり、自分から挨拶したりできるよう全校体制で取り組む。（朝や登校中の挨拶が特に小さい） ・時と場や人に応じた挨拶の仕方を繰り返し指導していく。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり、挨拶を啓発する内容を載せたりすることで、地域や家庭との連携を図る。 ・児童会や生活委員会などによる挨拶運動をより充実させていく。低学年でも挨拶をしたくなるような取組を考える。

	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」</p> <p>⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「五代の子の一日」は、年度始めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し、児童一人一人が自身の行動を振り返り、目に見える形で行えるよう実施する。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて、児童理解を深めるとともに、組織的に対応できるようにして指導の徹底を図っていく。 <p>○五代小学校、新田小学校、若松原中学校の 児童指導主任、生徒指導主事を中心に情報交換を行い、学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや便り等を活用して、児童の様子を保護者や地域に発信していく。 ・交通安全のマナーが守れていない児童が多いので（ヘルメット無着用，2列以上で歩く，信号無視など），交通ルールに関する指導を徹底していく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 92.2% ↑ (89.4%)を示し，数値指標 80%を上回っている。 ・保護者 89.9% ↑ (88.3%)，教職員 87.5 (87.5)，地域 82.1% ↓ (87.5%)であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五代の子の一日」は，年度始めに各家庭に配付し，ルールの確認と意識付けを図るとともに，節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し，児童一人一人が自身の行動を振り返り，目に見える形で行えるよう実施する。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて，児童理解を深めるとともに，組織的に対応できるようにして指導の徹底を図っていく。 <p>○五代小学校，新田小学校，若松原中学校の 児童指導主任，生徒指導主事を中心に情報交換を行い，学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPや便り等を活用して，児童の様子を保護者や地域に発信していく。 ・交通安全のマナーが守れていない児童が多いので（ヘルメット無着用，2列以上で歩く，信号無視など），交通ルールに関する指導を徹底していく。
--	--	--	---

	<p>B3 児童は楽しい学校生活を送っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は、楽しい学校生活を送っている。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学業指導に力を入れ、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートを基に、計画的に教育相談を行い、児童一人一人を受容的な態度で受け止め、児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して、学級満足度調査（Q-Uテスト）の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、協力して児童が安心して楽しく学校生活が送れるようにする。また、担任が一人で抱え込まないように、必要に応じてケース会議を開き、組織的に対応をしていく。 ・I C T 機器や学習端末を活用するなど、活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで、児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。 	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は 87.3% ↑ (86.8%) を示し、昨年度より上回ったが、数値指標 90%を下回っている。 ・地域 96.6% ↓ (100.0%)、教職員 100.0% (100.0%)、保護者 94.9% ↑ (93.6)、であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学業指導に力を入れ、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートを基に、計画的に教育相談を行い、児童一人一人を受容的な態度で受け止め、児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して、学級満足度調査（Q-Uテスト）の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、協力して児童が安心して楽しく学校生活が送れるようにする。また、担任が一人で抱え込まないように、必要に応じてケース会議を開き、組織的に対応をしていく。 ・I C T 機器や学習端末を活用するなど、活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで、児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。 ・縦割り班活動・なかよしタイムなど異学年交流をより充実させていく。 ・学級活動の授業において、構成的グループエンカウンタを取り入れることで、自己肯定感を高めたり対人関係スキルを学んだりする。
--	--	--	--

<p>B 4 児童は、進んで本を読んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は読書が好きで、進んで本を読んでいる。」</p> <p>⇒肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや取組を、可能な範囲で継続し、読書活動を推進していく。 ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書では、学年の「必読図書」の読書を奨励し、時間までに「物語」の本を選び、着席するようにする。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本に触れる時間を増やしていく。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年2回実施し、家庭での読書習慣の形成の一助とする。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定回答率は 65.1% ↓ (69.3%) を示し、数値指標 80% を下回っている。 ・保護者は 58.3% ↓ (61.0%)、教職員は 90.0% ↓ (93.8%)、地域は 82.6% ↓ (84.6%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度行ってきたイベントや取り組みを精選し、児童がより本に興味をもてるような活動を推進していく。 ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書がさらに充実するように、学年の「必読図書」の読書を奨励する。また、時間までに「物語」の本を選び、着席するようにする。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年2回実施し、家庭での読書習慣の形成の一助とする。 ・図書室のクラスルームを立ち上げて、図書室の情報を発信する。
<p>B 5 学校は、学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています。」</p> <p>⇒肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回家庭学習強化週間を実施し、家庭と連携して児童の学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定回答率は 83.9% ↓ (85.5%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 85% を上回っている。 ・保護者 79.3% ↓ (80.6%)、教職員 92.50% ↓ (100.0%)、地域 87.0% ↑ (68.7%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回家庭学習強化週間の内容をさらに充実させ、家庭と連携して児童の学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・今後も児童が主体的に学習に取り組めるように具体的な内容や方法を示したり、手本となる取り組みを伝えたりしていき、家庭学習の過程や成果を称賛しながら意欲を高めていく。また、その様子を保護者にも伝える。

	<p>B 6 教職員は、児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導法を工夫している。</p> <p>【数値目標】</p> <p>児童アンケート「先生は、自分から進んで勉強に取り組むことができるように教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等において、児童が興味関心をもてる学習課題を設定し、主体的に学習に取り組み、自分の学びを深めていけるよう支援する。 ・コグトレオンラインを朝の活動に位置づけ、認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで、基礎学力の土台づくりをしていく。 ・1人1台端末、ホワイトボード等を効果的に使い、「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。 ・A I ドリルを活用し、児童が主体的に学習に取り組めるよう支援する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定回答率は 90.6% ↓ (94.1%) を示し、昨年度より下回ったが、数値指標 90% を上回っている。 ・地域 95.8% ↑ (86.7%)、保護者 79.8% ↓ (80.6%)、教職員 97.5% ↓ (100.0%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等において、児童が興味関心をもてる学習課題を設定し、主体的に学習に取り組み、自分の学びを深めていけるよう支援する。 ・コグトレオンラインを朝の活動に位置づけ、認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで、基礎学力の土台づくりをしていく。 ・1人1台端末、ホワイトボード、実物投影機等を効果的に使い、「発表する」「伝える」等表現力の育成に取り組む。 ・A I ドリルを活用し、児童が主体的に学習に取り組めるよう支援する。
	<p>B 7 学校は、道徳教育や授業、様々な活動等を通して「心の教育」を推進し、豊かな人間性を育てている。</p> <p>【数値目標】</p> <p>児童アンケート「学校(高学年：道徳や授業、体験活動など)は、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業では、教科書やデジタル教材を活用する。必要に応じて教材の開発をし、資料等は保管・整理して活用できるようにする。 ・幼保小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。 ・なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定回答率は 94.0(94.0%) を示し、数値指標 90% を上回っている。 ・地域 96.4% ↑ (93.3%)、保護者 86.4% ↓ (87.0%)、教職員 95.0% ↓ (96.9%) であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業では、児童の発達段階に応じた心に響く道徳教育の充実を図る。 ・道徳教育だけではなく、様々な活動を通して、児童の発達段階に応じた心の教育を推進していく。 ・幼保小連携活動や小中乗り入れ授業では、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。 ・なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

１２評価項目（全２７評価項目）については、すべての評価対象において８５％以上の結果を得た。

１０評価項目において肯定的回答が８０％未満となっている評価対象がある。

【目指す児童の姿】

- ・Ａ２「児童は思いやりの心をもっている」については、児童９０．８％（３．３ポイントアップ）教職員９７．５％（１０ポイントアップ）、保護者９３．４％（３．７ポイントアップ）、地域９２．９％と高評価であった。教職員全員で、学年や学級に関係なく、意図的、積極的に児童の優しさや思いやりを認め褒めて行ったり、児童同士が感謝の気持ちを表す機会を多く設けたりしたこと成果であると考えられる。
- ・Ａ１２「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」については、児童９３．１％教職員１００％（６．２ポイントアップ）、保護者９１．５％（２．１ポイントアップ）、と高評価であった。教職員が、児童一人一人のよさが発揮できるよう、居がいのあるクラス作りを行い、児童の自己肯定感を高めたことと、学校生活での児童の頑張りやよさ、取組等を学校ホームページ、学年便り等を通じて保護者に伝えていくことで、児童や保護者との信頼関係を築けたことの成果であると考えられる。
- ・Ｂ７『心の教育』を推進し、豊かな人間性を育てる」については、児童９４％教職員９５％、保護者８６．４％、地域（３．１ポイントアップ）、と高評価であった。道徳科の授業で、デジタル教材を活用するなど。必要に応じて教材の開発をしたり、なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流で、助け合って仲良く生活することの大切さを実感できるよう、活動内容を工夫したりしたこと成果であると考えられる。

【目指す学校の姿】

- ・Ａ１８「家庭・地域・企業等と連携・協力して…学校運営の充実を図っている」については、児童８７．８％教職員１００％、保護者８８．８％（３ポイントアップ）、地域１００％（１７．６ポイントアップ）と高評価であった。地域コーディネーターと連携・協力し、学習ボランティアの充実を図ったり、五代夏まつりや五代フェスタなど児童、保護者、地域の方々が楽しめる行事（地域の活動）を活性化に努めたりした成果であると考えられる。
- ・Ａ１９「安全に配慮した環境づくりに努めている」については、教職員１００％、保護者８７．１％、地域９６．６％（１４．２ポイントアップ）、と高評価であった。定期的な安全点検を実施するなど、迅速に施設・設備の等を修理・修繕したり、避難訓練や運動会等の学校行事において、安全・安心に活動できる計画を立てて実施したりして、児童の安全な学習環境の確保を図れたことが成果に現れたと考えられる。

【本校の特色・課題】

- ・Ａ８「デジタル機器や図書等を学習に活用している」については、児童８５．８％、教職員９７．５％であるのに対し、保護者は７９．５％（４．６ポイントダウン）となった。デジタル機器や図書の活用について、授業参観等の行事との関連を図るとともに、総合的な学習の時間や各教科等の授業でＩＣＴ機器や図書等を効果的に活用するなど情報活用能力を高めていく必要がある。
- ・Ａ１３「活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」については、教職員９７．５％であるのに対し、児童９２．６％（１．４ポイントダウン）、保護者は８８．４％（３．２ポイントダウン）、地域は９２．９％（０．９ポイントダウン）となった。学校の教育目標達成に向けて教職員が協働して、さらに、児童の自己有用感を高める活動や居がいもてる学級経営を基盤とした人間関係作りに取り組み、授業や特別活動等において、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行っていく必要がある。
- ・Ｂ４「本を読んでいる」については、児童６５．１９％（４．２ポイントダウン）、教職員９０％（３．８ポイントダウン）、保護者５８．３％（２．７ポイントダウン）、地域８２．６％（２ポイントダウン）であった。今後も家読を推進したり、図書室でのイベントや取組を精選し、読書に対する関心を高める活動をしたり、図書室のクラスルームを立ち上げて図書室の情報を発信したりして、家庭や地域と連携しながら、本に親しむことの重要性を共通理解し、取組の充実を図る必要がある。

７ 学校関係者評価

・アンケートの回答率が、児童 94%、教職員・地域住民は 100%、保護者は昨年度より 3.4 ポイント上がり、67.7%の回答を得られたことは、学校の教育活動に対して関心を高めたことがうかがえる。今後も保護者の回答率をさらにあげていく取組の工夫が必要である。

・１２評価項目（全２７評価項目）については、すべての評価対象において８５％以上の結果を得たことについては、持続継続していただきたい。昨年度より下がった項目は、向上するよう努力が必要である。

・学校評価は、評価項目に対し、具体的にどのような取組や工夫がなされているのかが明確で、次年度の方針が理解できた。

・達成状況は、昨年度とほぼ同じ状況だと感じる。Ｂ４に関しては全対象者とも昨年度より下がっているのので、図書室の利用を増やす工夫が必要である。

・Ｂ５からＢ７の評価に関しては、学習支援ボランティアを増員する等、学校は、地域から豊富に人材を活用していくことで、今後も「地域とともにある学校」を推進している。

・Ｂ３については、教職員 100%、保護者 94.9%と肯定的回答が高いが、児童は 87.3%に留まっていることから、楽しく生活している児童がいることに大人が気付かない可能性もある。学級で生じる児童指導上の問題も保護者と共有していくなど、コミュニケーション不足を解消していくのが望ましい。

- ・ A10について、特別支援の先生方が大変な負担になっていると感じる。保護者ボランティアにも頼る時が多々あるので、特性別での学級編成をしていく等の工夫が必要である。
- ・ B4について、宇都宮南図書館にもデジタル図書館があるが、小学生の時だけでも紙の本を手にとって欲しい。
- ・ 児童は楽しんで学校生活を送っている様子が見られる。良い環境だと感じた。これからもご指導お願いしたい。
- ・ 五代夏祭りや冬の五代っ子フェスタなどの地域行事が盛んで、児童・保護者や地域住民たちとの交流が盛んでとても良い雰囲気である。また、学校に何と児童たちから積極的に挨拶をしてもらいとても良い気持ちになります。先生方も気持ちよく挨拶をして下さり、学校自体の雰囲気がとても明るくて素晴らしいと感じた。
- ・ 時と場所によっては、児童ばかりか、先生方や保護者の方も挨拶できない人がいるので、改善が必要である。
- ・ 挨拶の励行について、学校と保護者が一体となって、安全パトロール等の地域の方々へ進んで挨拶できるよう指導することが重要である。
- ・ 目上の人に対する児童の言葉遣いがよくない。事例として、「あんた」「お〜い」など。また、こちらが挨拶しても無反応の子が多いので指導が必要である。
- ・ 五代っ子フェスタは、児童、保護者、地域住民の多数の参加や協力により、大変盛り上がることでできてよかった。収益も昨年度よりあった。さらに、地域住民へ広めていき、地域を活性化させていきたい。
- ・ スクールガードチーフから、安全パトロール隊員の減少と担い手不足が心配であるという意見があった。今後も、学校と地域が一体となって、交通安全への児童の意識改革（自分の命は自分で守ることの重要性）が必要である。また、保護者への指導も根気強く継続してほしい。
- ・ 1人1台端末の活用については、賛否両論がある。デジタル機器を使用する機会が増えれば、本に触れる機会が少なくなる、適切な使用方法やルールについて低学年を中心に更なる指導が必要である。
- ・ 特別教室の廊下のすべり具合は、ワックス掛け等の対応で改善されている。しかし、清掃が行き届いてない箇所がある。対応をお願いしたい。また、体育館・校庭トイレの洋式化を早急をお願いしたい。
- ・ いじめや不登校を生まない学級づくりに関して、児童や教職員の肯定的回答が高く、児童が仲よく居心地のよい学校生活を送れている。SNSの動画拡散について、防止する指導も必要である。

8 まとめと次年度へ向けて

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

今年度、「つながりを通して学ぶ楽しさと居場所のある学校」の経営方針のもと、児童、教職員、家族、地域の方々が互いにつながりを持ち、教科や学校行事とのつながりを明確にし、活動を充実させながら、一人一人が生き生きと輝く学校を目指してきた。次年度も継続して、児童が主体的に活躍する場を意図的に設けたり、活動内容の意義を児童に理解させたりして、地域との連携を図りながら、誰もが生き生きとかがやく学校を目指していく。また、教職員の学び合いと職場環境の改善を図ったり、児童一人一人の居がいのある学級づくりに努めながら、児童のよさを認め励ます指導を続けたりして、安全安心で温かさと活気に満ちた笑顔あふれる学校づくりに努めていきたい。

【学習指導】

「主体的に取り組み、自分の学びを深めていく子供の育成」の重点目標のもと、「宇都宮モデル」を活用し、精選した目当てを示し、自ら考え、共に学び合う時間を意図的に組み入れ、思考力、判断力、表現力の育成を図った。また、少人数指導、かがやきルームの活用、朝の学習の効果的な運用等で、基本的な学習態度・学習技能の習得を基に、一人一人に応じたきめ細やかな指導を展開し、基礎・基本の確実な定着を図った。さらに、次年度も、学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力等を育成するために、児童が考え、学び合う時間を確保し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っていききたい。また、1人1台端末等の効果的な活用について、さらに研修による研究を深め、個別最適な学びの充実を目指して、デジタルシティズンシップの育成や教師の授業力向上に努めていきたい。

【児童生徒指導】

「豊かな心と道徳的実践力の育成（自己有用感・規範意識）」の重点目標のもと、帰属意識の高い学級づくりを目指して、児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する取組を努めた。あいさつ運動の取組等を通して、児童の自分から進んであいさつしようとする意識が向上してきた。また、聴く、考える、伝え合う場面をとらえて、温かな言葉の力を育成したり、いじめゼロ運動の推進や人権週間等の啓発により人権教育を充実させたりした。ヒラメの長期飼育を通した「いのちの授業」の実施でも心の教育を推進することができた。今後も、地域や保護者と連携しながら、「進んで 笑顔で 挨拶や 返事ができる 子供の育成」「読書活動の推進」に注力し、児童理解に努め、居がいのある楽しい環境づくりに努めていきたい。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

「体力向上・健康保持を目指した心身ともに健康な子供の育成」の重点目標のもと、地域学校園の児童生徒の実態を把

握、分析した上で、義務教育 9 年間を通して、自らの心身の健康を維持するため、健康に関する自己管理能力や体力の向上、望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける力を育てることに担任・養護教諭・栄養教諭が連携して指導にあたった。

避難訓練や交通安全教室等の学校行事の実施や登下校指導、地域人材や学習ボランティアを活用した様々な体験活動の実施等で、安全に配慮し行動できる力、正しい判断力を身に付けられるよう安全指導の充実を図ってきた。交通ルールの順守や自転車乗車時のヘルメット着用について日常的に指導し、交通安全の意識を高めてきた。今後も、体力アップタイムや各種検定で運動への関心を高め、運動技術の向上を図ったり、食育指導や保健指導を推進したりするなど、健康への関心を高め、体力の向上と望ましい食習慣や健康を管理する力を身に付けるよう心がける子どもの育成に努めていきたい。また、継続的に日常的な安全に生活するための意識改革や危機管理意識の高揚を図っていきたい。

【その他】

○小中連携の取組の更なる拡充や小中連携のカリキュラムマネジメントの充実といった試みを通して、地域学校園の一層の連携を図っていく。

・今年度も学校だよりや学年だより、ホームページ等を活用し、学校のことや児童のことについて情報を発信することができた。次年度も継続して行っていく。